

施策評価(平成30年度)

1 基本項目

基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策	1	未来につなぐ環境都市の実現
施策	23	自然環境
基本方針		
人と自然と生物が調和しながらめぐる、うるおいのあるまちを目指します。		

2 事後評価結果

計画事業名	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	今後の 方向性
自然環境学習の充実	計画どおり完了	A	A	A	現状のまま継続
自然環境の保全と再生	計画どおり完了	A	A	A	現状のまま継続

3 施策評価の結果

<p>施策23「自然環境」では、2事業について評価を実施した。</p> <p>進捗状況については、すべて「計画どおり完了」であり、滞りなく履行されている。</p> <p>各事業における妥当性(必要性)、効率性(手法)、有効性(成果)については、すべてA(適切なもの)と評価している。</p> <p>本施策の基本方針は「人と自然と生物が調和しながらめぐる、うるおいのあるまちを目指す」ことであり、「自然環境学習の充実」においては、自然環境を保全する意識の高揚を図る取組みを実施したことや、「自然環境の保全と再生」においては、市民と協働した保全活動を推進したことから、施策に掲げた基本方針の達成に向けて着実な推進が図られているものと評価する。</p>

平成30年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			環境保全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
00 自然環境学習の充実			年 期間設定10年	自治事務(市独自)		○
01	環境教室(講師謝礼)	不明	年 期間設定10年	自治事務(市独自)	直営	
02	環境フェスティバル事業助成金	平成 24 年	期間設定10年	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
03	羽村×八丈エコ教室実行委員会補助金	平成 26 年	期間設定10年	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
04			年			
05			年			
関連課						
基本目標4 ひとと環境にやさしい安全で快適なまち		施策区分	23	自然環境	管理No.	123

2.事業の概要

施策の基本方針	人と自然と生物が調和しながらめぐる、うるおいのあるまちを目指します。
事業内容	自然環境を保全する意識の高揚を図るため、水、土、みどりや生物多様性などの自然の重要性に関する理解を深めるための学習を充実させます。
根拠法令	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律
条例	羽村市環境基本条例
要綱等	環境とみどりの基本計画～環境・みどり・生物多様性を包括的に進めるはむらプラン～

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	水辺観察会 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回
	みどりの環境教室 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回
	環境フェスティバル 参加者数 3,800人	同左 参加者目標数 3,800人	同左 参加者目標数 3,800人	同左 参加者目標数 3,800人
	羽村×八丈エコ教室 参加者数 30人	同左 参加者目標数 31人	同左 参加者目標数 31人	同左 参加者目標数 31人

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	476 H	2人	476 H	2人	476 H	2人	476 H
主事・主任職	2人	369 H	2人	369 H	2人	369 H	2人	369 H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	7,146	6,940	6,940	6,940
人件費(係長職)	4,733	4,733	4,733	4,733
人件費(主任・主事職)	2,457	2,457	2,457	2,457
総事業費(合計)	14,336	14,130	14,130	14,130
国庫支出金				
都支出金	20	770	43	43
受益者負担額				
その他特定財源	4,012	3,912	3,912	3,912
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	10,304	9,448	10,175	10,175
財源内訳(合計)	14,336	14,130	14,130	14,130

③コスト計算

ア 市民 55,710 人における1人あたりのコストは、 254 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の 出来高 の コストは 円

※ 対象者:

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

②活動実績

第7回環境フェスティバルは「育てよう！エコの木(気)」をテーマに、会場をゆとりぎ前道路に集約、メインステージをゆとりぎ交流広場とし、集約による賑わいととも、スイミングセンターで実証実験を行う廃熱利用システムの紹介等、展示内容の充実に努めた。
羽村×八丈エコ教室は、事前学習及び、八丈島における体験学習を通して、児童・生徒にとって充実した内容となった。
水辺観察会とみどりの環境教室は予定どおり実施できた。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	6,940		6,940	6,362	91.7%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	476 H	2人	476 H
主事・主任職	2人	369 H	2人	369 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
○水辺観察会 1回 ○みどりの環境教室 1回 ○環境フェスティバル参加者数 3,800人 ○羽村×八丈エコ教室参加者数 31人	⇒ ○水辺観察会 1回 ○みどりの環境教室 1回 ○環境フェスティバル参加者数 3,500人 ○羽村×八丈エコ教室参加者数 29人

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input checked="" type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input checked="" type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input checked="" type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果) <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input checked="" type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

基本方針は「人、自然及び生物の調和、生態系保全」であるが、これを進めるためには市域の全ての主体が意識し、取り組まなければならない。このため、本事業は自然環境を保全する意識の高揚を図る内容としており、事業の進捗を図るための参加者アンケートでは高い評価が得られており、今後も引き続き推進する。

Action(改善)

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

【今後の取組方針】

参加者のニーズを捉え、自然と生物への理解が深まる事業として引き続き実施する。

平成30年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			環境保全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
00 自然環境の保全と再生			年 其他	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	○
01	樹林地および樹木の保存に関する助成	昭和 60 年	継続	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
02	樹林地管理ボランティアの支援	不明	年 其他	自治事務(市独自)	其他	
03			年			
04			年			
05			年			
関連課						
基本目標4 ひとと環境にやさしい安全で快適なまち		施策区分	23	自然環境	管理No.	124

2.事業の概要

施策の基本方針	人と自然と生物が調和しながらめぐる、うるおいのあるまちを目指します。
事業内容	自然環境を保全していくため、多様な主体と協働し、市域の緑の骨格である崖線の緑地などの保全と再生を図ります。
根拠法令	都市緑地法、環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律
条例	羽村市環境基本条例、羽村市樹林地及び樹木の保存に関する条例
要綱等	環境とみどりの基本計画

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	崖線面積10.42ha 樹林地管理活動27回	同左	同左	同左

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2 人	120 H	2 人	120 H	2 人	120 H	2 人	120 H
主事・主任職	1 人	256 H	1 人	256 H	1 人	256 H	1 人	256 H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	159	179	179	179
人件費(係長職)	1,194	1,194	1,194	1,194
人件費(主任・主事職)	853	853	853	853
総事業費(合計)	2,206	2,226	2,226	2,226
国庫支出金				
都支出金				
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	2,206	2,226	2,226	2,226
財源内訳(合計)	2,206	2,226	2,226	2,226

③コスト計算

ア 市民 55,710 人における1人あたりのコストは、 40 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の 出来高 の コストは 円

※ 対象者:

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

②活動実績

市域の緑の骨格である崖線を保全するため、崖線における保存樹林地の適正維持の推進、市民団体による樹林地管理活動を支援し、樹林地活動は27回実施した。また、市内の貴重なみどりを保全するために指定した保存樹木27件に対する助成を行った。
崖線について、平成30年度は2件、合計771㎡を市民の方から寄付をいただいた。
崖線の公有地化については、申し出があった場合に対応している。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	179		179	165	92.2%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	120 H	2人	120 H
主事・主任職	1人	256 H	1人	256 H

④事業量(活動量)

実施計画	⇒	今年度実績
○崖線面積 10.42ha ○樹林地管理活動 27回		○崖線面積の維持・保全 10.42ha ○樹林地管理活動 27回

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) (<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input checked="" type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法率) (<input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input checked="" type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input checked="" type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果性) (<input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input checked="" type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

基本方針は「人、自然及び生物の調和、生態系保全」であり、これを進めるためには市域の全ての主体が意識し、取り組まなければならない。特に市域の緑の骨格である崖線の緑地などの保全と再生を図るためには、多様な主体と協働した取り組みが必要であり、市民と協働した保全活動である本事業は非常に重要である。

Action(改善)

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

【今後の取組方針】

環境保全活動団体の会員は全国的に高齢化が進み、円滑な活動が困難になりつつあるが、当市においても同様の状況であることから、環境保全活動団体を支援し、現状の活動水準を維持するための方策を検討する。市民協働による活動レベルを維持していくため、事業者との連携や協働を検討し、より民間活力のある事業となるよう進める。